



## ヤマヒト事業 今年度の活動をスタート



(上)保健師が血圧を測定し健康状態を確認。(下)初回の10月3日は、全員で現地を歩き活動内容を検討しました。



深谷行政区の有志のグループ「フォレいいたて」が、3年目となる「ヤマヒト事業」の活動をスタートさせました。「ヤマヒト事業」の正式名称は、「ヤマとヒトの健康づくり事業」です。里山再生の活動と、健康増進の取り組みを組み合わせ、「ヤマ」と「ヒト」を同時に元気にしていこうというユニークな事業です。

「フォレいいたて」は、「村民の森あいの沢」で、週に1回、下刈りや落ち葉かき、枯れ枝の集積などを行い、一帯の環境整備に汗を流します。また、毎回、活動の前に、血圧測定や健康観察を行い記録をする他、健康福祉課が健康講話などを企画する回も設けられます。

復興対策課農政第一係では、この「ヤマヒト事業」を活用する団体を募集しています(今年度分は終了)。詳しくは、同係まで、お問い合わせください。

## 13区営農組合 法人となり本格始動

上飯樋地区で、農地を借り上げ、WCS※や牧草などを生産する「13区営農組合」が、10月に法人化の手続きを済ませて、本格的に活動を始めました。

同組合では、これまで整備を進めてきた農地を耕起し、堆肥を入れて、来春からのWCSの生産に向け、準備を進めています。この秋は、ナタネや牧草の種をまき、来年度の活動につないでいくということです。



地区と協力し農地保全に取り組んできました(7月撮影)



台風19号の影響により、村内の農地や農業用ハウスの一部に被害がありました。また、収穫前の水田やソバ畑の一部では、倒伏の被害もありました。農政第一係では、被害状況を集約し、相談も受け付けています。

**問** 農政第一係  
**☎** 0244-42-1621

※WCS=ホールクロップサイレージの略

## 新そばの季節

今年、ソバ畑も、多くの地域につくられました。前田地区の「前田明神そば生産組合」が生産したソバ粉は、この秋、道の駅などで販売される予定です。



村の農業委員会(菅野啓一会長/比叢)が協力する「東大むら塾」のソバ畑。10月9日に学生らが収穫作業を行いました。このソバの一部は、農業委員会主催の「農業者等との意見交換会」で手打ちそばとして振る舞われます。※10月24日時点の予定

## いいたての花 全国に向けPR



花き農家の協力のもと「よい仕事おこしフェア」に出展しました。写真は高橋日出夫さん(関根・松塚)のアルストロメリアの収穫作業。

カスミソウ、リンドウ、トルコギキョウ、アルストロメリアなど、さまざまな品種の花が、村内で栽培されています。市場で評価され、高価格で取り引きされる例も増えました。10月には東京での催しに村が出展し、「いいたての花」の品質をPRしました。※P20に記事

## 村民の新たな取り組み 各地からの視察に対応

地区内で農地を使わない人はどんどん貸してと話しています。「災い転じて福となす」気持ちで、農地の集約も進めていきたいです。



関根松塚

水田放牧について説明する山田猛史さん(関根・松塚)

村内のさまざまな取り組みを視察したいという申し入れが相次いでいます。9月27日には、「環境経済政策学会」が来村し、関根・松塚地区で、山田猛史さんの水田放牧、大久保・外内地区で、地域住民によるエゴマ栽培及び福島大学の実証栽培を視察しました。多様な視察の受け入れには、多くの農家の皆さんに協力をいただいています。

大久保外内



エゴマをはじめ収穫後の雑穀は手作業で根気よく処理します。高齢者ならではのいねいな仕事でよい製品ができると思いますよ。

大久保・外内地区の取り組みを紹介する長正増夫行政区長